

## シリーズ

# ヒトが人間になるための進化の歴史

帯刀益夫（東北大学名誉教授）

## 終わりに

21世紀初頭にヒトゲノムの完全解読がなされたのをはじめとして、近年の生命科学研究の進展の速度は目覚ましいものがあり、21世紀は「生命科学の世紀」とも呼ばれています。

数学、天文学、物理学や化学などの他の自然科学と比べると比較的遅れていた生物学は、1900年にメンデルの遺伝学の法則の再発見がなされてから百年の間に、人間を含む地球上のすべての生き物を普遍的な遺伝的な法則性のうちに統一的に理解できるまでに進みました。そして、その成果は医学の進歩、農業の発展など幅広く利用されています。

私は、現代の生命科学の研究成果をもとに新しい「人

間」像を考えてみたいと思ひます。

まず、「生物としての人間の歴史」をいう副題を持つ「われわれはどこから来たか、われわれは何者か、われわれはどこへゆくのか」（早川書房）を出版しました。

ここで、ゲノム情報を基にしたダーウィンの進化論の現代的解釈にのっとって人間の進化の跡をたどつてみると、それまで筆者が想定していた「自然選択」による遺伝子進化だけでなく、「ヒト」という種が「人間」になるためには、さらに「文化選択」が必要であることに気づきました。そこで、「遺伝子と文化選択」を出版し、「先祖の猿」からどのような遺伝子進化をへて「ヒト」という種と

なったかを、進化上の兄弟であるチンパンジーとの比較を通して追跡し、さらに「ヒト」がどのようにして「文化」を生み出し、自ら作り出しました。

これまでの連載内容は、これらの中から抜粋したものであります。また、この4月には、生命の起源から現代のわれわれに通じる細胞の進化について、「利己的細胞」（新曜社）を出版し、これで、「生物としての人間の歴史」について概観できたと感じています。

これまで、「人間」を扱う学問は哲学をはじめとする人文科学や社会科学などの文系の学問だと思われてきましたが、これから、「新しい人間像」の理解には、「生命科学」と「文系の諸科学」との共同作業を進めることが必要な時期に来ていると考えます。

今回の西日本の豪雨による災害や、東日本大震災と続い

て起きた原発事故という天災と人災は、あらためて「われが自然の一部であり、自然の真ん中にある」ことを自覚させられました。

一方で「自らが作り出した文化」である「宗教に起源をもつ対立や、政治経済の対立人々がさいなまれています。先進諸国の人口減少も、別の意味で「生命の危機的状況」

を作り出しています。

さらに、30年先には「AI」が「人間」を超える「シンギュラリティ」が迫っています。つまり、我々は、人間とは何か」をもう一度再確認する時代に直面しているといえます。

「人間とは何か」をもう一度しく制御できなければ、人類の滅亡に向かうことも考えなくてはなりません。我々は、

「自ら作り出した文化」を正しく制御できなければ、人類

帶刀先生、長い間連載ありがとうございました。先生にはシリーズ第1回「人はなぜ老いるか？」を150号から162号まで、シリーズ第2回「遺伝子組み換え食品とは」を164号から174号まで、シリーズ第3回「ヒトが人間になるための進化の歴史」を188号から200号までと4年以上にわたって執筆していただきました。

シリーズのひとまずの終了と200号達成を記念して、先生と編集に携わってきた面々が集まり、懇談会を行いました。様々な質問が出され、先生には丁寧に答えていただきました。先生が今回の原稿で書かれているように、30年先には「AI」が「人間」を超える時代が来るかもしれません。その時々の事柄を「人間とは何か」に結び付けて考えていくなくてはと深く思いました。また原稿をお願いすることがあるかと思いますが、健康に留意されご活躍ください。

ファンクラブ役員一同

## 部内資料

発効責任者 大田 勲 (62-5727)  
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)  
服部 久子 (62-4357)  
編集責任者 山本 久子 (61-1066)

201号  
2018年7月

# 日本共産党 池田ファンクラブ・ニュース あした天気にな～れ

消費し、強力な磁力を発生させること、危険は活断層地帯をくり抜き、ほとんどがトンネル部で安全性や採算性が大きな問題となります。そもそも必要性があるのかともうことです。排出される残

りニア新幹線は膨大な電力を計画をもう手を挙げて推進しています。

現県政には多くの問題点があります。リニア中央新幹線は、民間の一企業（JR東海）の事業であり、多くの地域や住民を得ていません。現知事はこの計画をもう手を挙げて推進しています。

前回の知事選挙では、投票率が50%を下回り、県政に対する関心の低さが浮き彫りになりました。社会保障や医療、教育、農業など私たちの暮らしに直結する問題でどのようないい県政の望むのか、はつきり意思を表明する機会です。

現県政には多くの問題点があります。リニア中央新幹線は、深刻な影響を及ぼすにもかわらず、県民や国民、議会の同意を得ていません。現知事はこの計画をもう手を挙げて推進しています。

8月5日投票 県知事選挙 暮しを守る県政への意思を示そう！

前回の知事選挙では、投票率が50%を下回り、県政に対する関心の低さが浮き彫りになりました。社会保障や医療、教育、農業など私たちの暮らしに直結する問題でどのようないい県政の望むのか、はつきり意思を表明する機会です。

前回の知事選挙では、投票率が50%を下回り、県政に対する関心の低さが浮き彫りになりました。社会保障や医療、教育、農業など私たちの暮らしに直結する問題でどのようないい県政の望むのか、はつきり意思を表明する機会です。

土、工事車両の大量流入、水源の枯渇など生活環境に及ぼす重大な影響は全く解決していません。工事は一旦中止し、徹底的な検証をする必要があります。

大北森林組合問題についても、県幹部の関与が明らかにされないまま、現場職員に責任が押し付けられています。現知事8年の任期中に起きた不祥事であり、この責任は免れないのではないかでしょう。財政問題では大型事業の推進により、過去最大の借金がどうしても重大な問題です。

福島第一原発事故では東北信地方がかなりの被害を受け、今だにキノコや山菜が放射性物質に汚染されていることからしても、明確に反対の表明が求められています。くらし、環境を大切にする県政を実現するため必ず投票に行きましょう。

1兆7400億円（県予算の2倍）となり、財政危機を招いています。

長野県は北に中越沖地震で事故を起こし、世界最大8基の柏崎刈羽原発、西に志賀原発、南に浜岡原発と100キロ内外に10基超の原発に囲まれています。原発再稼働問題は県民にとっても重大な問題です。

福島第一原発事故では東北信地方がかなりの被害を受け、今だにキノコや山菜が放射性物質に汚染されていることからしても、明確に反対の表明が求められています。くらし、環境を大切にする県政を実現するため必ず投票に行きましょう。

『かつてない』最近よく耳にする言葉だ。異常気象と大災害『かつて経験したことがない』と連日のようになります。

に報道されている。被害に遭われた皆さんにかける言葉もないが地球温暖化防止対策はまさに人類にとって喫緊の課題だ▼通常国会が閉幕したがこれもまた『戦後かつてない異常国会』と評される。森・加計問題や働き方改革法案等での改竄・隠蔽、捏造、虚偽答弁、国会終盤では未曾有の災害を横において賭博優先の暴挙、参院議員定数変更の強行などどれをとっても国民多数の支持は得られない▼小選挙区制によって得た国会での虚構の多数が、暴走を許し国民世論との乖離をうんでいる。共産党は必死で野党共闘に尽力し、成果をあげつつある。が、しかし、報道の自由度が世界で72位という日本マスコミの現状は大いに気になる▼県知事選挙では共産党以外は阿部知事支持というオール与党体制だ。憲法改正や原発再稼働容認など安倍内閣にものが言えない県政とはあまり知られていないのは、国政では安倍内閣と対決している野党も県政では阿部知事支持。マスコミの突つ込みの弱いのも原因と言える。

## 文芸欄

### 「ヒロシマへ 一步一步の 青田風」 邦夫

一、朝日に映える 有明山は 千賀子

二、安曇平と くれる山

三、おも若きも 美くしい 慣たものです



千賀子

踊る姿は

安曇節